

どもる子どもとことばの教室の担当者との対話

千葉県立院内小学校 渡邊美穂

はじめに

私は、ことばの教室で子どもたちと「対話」楽しみながら学習を進めてきた。一対一で子どもたちとかわるので、「対話」を丁寧に行いたいと思った。そして、子どもたちとの「対話」がもつ意味を考えたいと思い、吃音キャラクターを描いた小1のかずとくんととの対話を書きだしてみた。私が「対話」をするときに心がけたのは、「対等性」と「無知の姿勢」そして、「好奇心をもって子どもと向き合う」である。

吃音キャラクターとは、自分の吃音を形にしてみるものである。そうすることによって、吃音についてなかなか語れない子が客観的に吃音を捉えることができた。また、吃音キャラクターを通して自分や吃音に向き合うようになった子もいる。

＜吃音キャラクターを描き終わってからの対話＞

渡邊 : かずとくんの吃音キャラクターの名前は、なんていうの？

かずと : 「とまるん」だよ。

渡邊 : どうして、その名前にしたの？

かずと : だって、ぼくが難発でことばがなかなか出てこないし、すぐとまっちゃうから。

渡邊 : そうか、かずとくんは難発で出だしが言いにくいだったね。それで、この「とまるん」は、どこにいるの？

かずと : ぼくの頭の上だよ。

渡邊 : 体の中ではなくて、頭の上にいるんだね。へーはじめて。これまで描いてもらった子たちの吃音キャラクターは、喉とかお腹の中とか、口の中でこちらか全然見えないところにいたんだよ。じゃあ、頭の上にいるのが見えるんだね。

かずと : うん。見えないよ。

渡邊 : あ、見えないのか。でも、かずとくんには見えるんでしょ。

かずと : 見えないよ。誰にも見えないの。不思議なんだけどね。

渡邊 : そうなんだ。でも、「とまるん」のこと聞いてもいい？

かずと : いいよ。

渡邊 : 大きさはどのくらい？

かずと : 縦4 cm、横3 cmぐらいかな。

渡邊 : どうやってかずとくんをどもらせるの？

かずと : ぼくの頭をぐっと締め付けて、どもらせるんだよ。

渡邊 : 頭が痛くなっちゃうの？

かずと : 頭が痛いとかなくて、ぼくはどもるんだよ。ぎゅっとされて「あっどもるな」ってわかるの。

渡邊 : へー。どもる前に「どもるな」ってわかるの？

かずと : そう。だいたいね。

渡邊 : じゃあ、「とまるん」は、何を食べているのかな？の好きな食べ物や嫌いな食べ物ってあるの？

かずと : 好きな食べ物は、パイナップル。嫌いな食べ物は、梅干し。

渡邊 : かずとくんの好きな食べ物と一緒にじゃない？

かずと : そう。嫌いな食べ物もいっしょだよ。

渡邊 : じゃあ、もしかして好きな遊びは？

かずと : これも一緒、「うんてい」だよ。

渡邊 : えー！すごいね。かずとくと「とまるん」は仲良しなんだね。

かずと : それは・・・。それは、まだわかんない。

渡邊 : え？どもらせる悪い奴なの？

かずと : わかんない。敵か味方かまだわかんないんだよね。

渡邊 : では、最後に「とまるん」は、好きな人いるのかな？

かずと : いるよ。たぶん、ぼく。

渡邊 : そっか、「とまるん」は、かずとくんが好きで、かずとくんは「とまるん」は好きかどうかまだわかんないんだね。

かずと : そう。どんなやつか、まだわかんないんだよね。

おわりに

かずとくんは、困っていることは「ない」と言っていたが吃音の存在が気になっている様子である。「どんなやつかまだわかんない」と言って「とまるん」の表情も無表情である。他の絵を描くときには、可愛い顔や怒った顔などの表情になるがこの「とまるん」だけ、この表情である。これからどんな表情になっていくのか楽しみである。どうして表情が変わったのか、変わらないのかどちらにせよまた「対話」をしていきたいと思う。

